

受 験 番 号					

氏 名

2016 (平成28) 年度放送大学
 大学院修士課程
 文化科学研究科 文化科学専攻

人間発達科学プログラム

筆 記 試 験 問 題

試 験 日：2015 (平成27) 年10月4日 (日)

試 験 時 間：9時30分～11時30分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子は開かないでください。
2. 解答には、HB又はBの黒鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
3. 配付されるものは「問題冊子1冊」及び「解答用紙2枚」です。追加配付はしません。
4. 試験開始の合図の後、問題冊子を確認してください。

問題冊子は、表紙、白紙、問題(2頁)、下書き用紙(2枚)の順に綴じられており、合わせて6枚です。

冊子を綴じているホッチキス針をはずしたり、中身を破り取ったりしてはいけません。

問題冊子または解答用紙に落丁・過不足のある場合、あるいは印刷が不鮮明な場合には、手を挙げて試験監督員の指示に従ってください。

5. 問題冊子の所定欄に、受験番号及び氏名を記入してください。
6. 解答用紙は「大問題(問題冊子に第1問、第2問…と表示されています。)」ごとに使用し、解答用紙の所定欄に、受験番号、氏名、プログラム名並びに「大問題」番号及び「大問題」ごとに何枚目であるかを解答用紙別に必ず記入してください。
7. 問題冊子及び解答用紙を持ち帰ってはいけません。
8. 問題冊子は試験終了後に回収します。問題冊子に解答を記入しても採点の対象にはなりませんので、必ず解答用紙に解答を記入してください。
9. 試験時間は2時間です。試験開始後40分を経過した後は、問題冊子及び解答用紙を試験監督員に提出した上で、退室してもかまいません。ただし、試験終了5分前以降は退室できません。

人間発達科学プログラム 筆記試験問題

次の各問に答えなさい。ただし、第1問については(1)、(2)の2問全てに解答し、第2問については、(1)、(2)のいずれか1問を、自分が専攻したいと思う分野の設問から選択して解答しなさい。

第1問 (全員が解答)

以下の文章は、学校と地域社会との関係を重視し、1940年代に、「コミュニティ・スクール」を提唱したアメリカの教育学者オルセン (Edward G. Olsen) の著作、*School and Community*の第1章の導入部分である。この文章を読み、下の(1)、(2)の問に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係で
公開できません。)

Source: E. G. Olsen, *School and Community* (New York: Prentice Hall Inc., 1945):

- (1) 文中の下線部を日本語に翻訳しなさい。
- (2) 筆者の主張、本文の内容を400字以内で説明しなさい。

第2問

次の(1)、(2)のいずれか1問を選択して解答しなさい。選択にあたっては、自分が専攻したいと思う分野の設問を選び、解答のはじめには、必ずどの問題に対して解答するのかその番号及び分野名を明記すること。

(1) [教育学分野]

戦後70年を振り返って、現代の日本の教育にとって重要な転換点（ターニング・ポイント）と考える出来事を順に3つを挙げて、重要と考える理由をそれぞれ論じなさい。また、それらのうちの一つを取り上げ、修士課程で研究しようとしているあなたのテーマとどのように関連するかについても述べなさい。

（800字以内）

(2) [心理学分野]

心理学者のレヴィン（Lewin, K.）は「人間行動は人と環境の関数である」と考え、それを $B=f(P \cdot E)$ という式で示した（BはBehavior＝行動、PはPerson＝人、EはEnvironment＝環境、fはfunction＝関数）。つまり人間の行動は、行為者の性格、能力、信念等と、その行為者を取り巻く物理的・社会的環境という2つの要因によって規定されるということである。このことに関して、以下の2つの問いに答えなさい。

（全体で800字以内）

- ① あなたが修士課程で研究しようとしているテーマ（あなたが関心を持つ人間行動）において、P（人）に相当するもの、E（環境）に相当するものは、それぞれ何かを説明しなさい。
- ② P（人）とE（環境）の2つの要因のうち、あなたの研究テーマは、どちらの要因により焦点をあてているか。その理由とともに説明しなさい。